

# 印刷データ入稿ガイド

Illustrator 編

2019年度

有効期間を過ぎた「印刷データ入稿ガイド」は削除してください。  
最新のデータがサーバーにありますので、ダウンロードをお願いします。

次の項目に従ってデータのチェックを行ってください。  
不明点については ▶▶ のページをご参照ください。

check

## 推奨保存形式 (Illustrator)

で保存されていますか。▶▶ P01

## フォントはアウトライン化していますか？

- ▶ アウトラインとは？ ▶▶ P02
- ▶ アウトライン作成手順 ▶▶ P02

## カラー設定は適切ですか？

- ▶ カラーモードはCMYKになっていますか？▶▶ P03
- ▶ 特色(スポットカラー)はプロセスカラーに直していますか？▶▶ P04

## 配置画像は適切な状態にしていますか？

- ▶ 画像はリンクまたは埋め込みされていますか？ ▶▶ P05
- ▶ 解像度は適切ですか？ ▶▶ P06
- ▶ Photoshopデータについて ▶▶ P07

## サイズ設定は適切ですか？

- ▶ トンボについて ▶▶ P08
- ▶ 塗り足しについて ▶▶ P08



株式会社 **三協印刷**  
SANKYO PRINTING CO., LTD.

# データは正常に保存されていますか？

印刷に対応したファイル形式[ai]で保存してください。また保存した後に、データが破損していないか、最終のレイアウトで保存されているか、データを開いて確認してください。

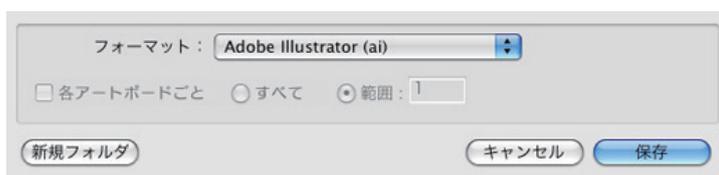
## 保存時の注意点

印刷に不要なレイヤーやオブジェクトは削除して別名で保存してください。  
上書き保存をすると、アウトライン化されたフォント等、データの再編集ができなくなります。

## Illustrator 入稿の推奨保存形式 [ai]

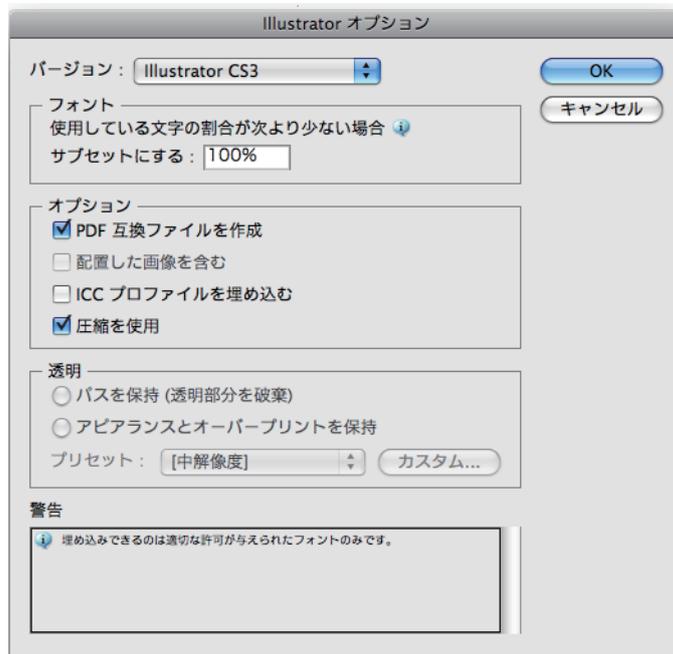
Illustrator標準の保存形式です。作成したデータの機能を失わずに保存することができます。

- 1.「Adobe Illustrator」などの、拡張子が「.ai」となるフォーマットを選んで「保存」します。



2. オプション設定画面を次のように設定してください。

バージョン	必ず作成したバージョンを選んでください。 下位のバージョンで保存されると、そのバージョンにない機能が失われ、データに不具合が生じることがあります。
フォント	100%(Illustrator入稿ではフォントのアウトラインをすべて作成してください。)
オプション	PDF互換ファイルを作成: 任意 チェックを入れるとファイル容量が大きくなりますが、PDFに対応したソフトで、データを確認することができます。InDesignに配置されるときは必須です。
	配置した画像を含む: オフ リンクで配置した画像があるときに選択できます。チェックを入れるとファイル容量が大きくなります。
	ICCプロファイルを埋め込む: オフ
	圧縮を使用: 任意 チェックを入れると保存時間が遅くなりますが、データを劣化させずに容量を小さくできます。



# アウトラインとは？

フォントを含んだデータを、作成したパソコンと異なる環境のパソコンで開くと、

フォントが正しく表示されないことや、文字の位置がずれる、

場合によっては文字化けを引き起こすなど多様な問題が  
起こります。フォントには数え切れないほどの種類があり、

まったく同一の環境を整えることは容易ではありません。

そこでフォントの「アウトラインを作成」することで、文字を図形化し、異なる環境でデータを開いても、形を崩さずに出力できるようになります。



## アウトライン作成手順

1. アウトライン作成したいフォントにロックがかかっていないか確認してください。

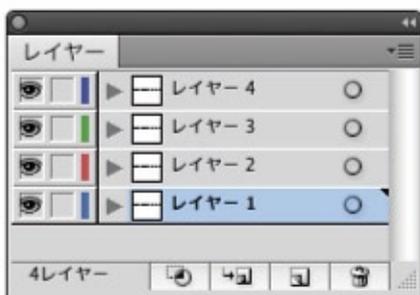
・レイヤーのロックを解除	レイヤーパレットで鍵がかかっていない状態にします。
・オブジェクトのロック	「オブジェクト」メニュー→「すべてをロック解除」

選択できない場合は、ロックがかかったオブジェクトはありません。

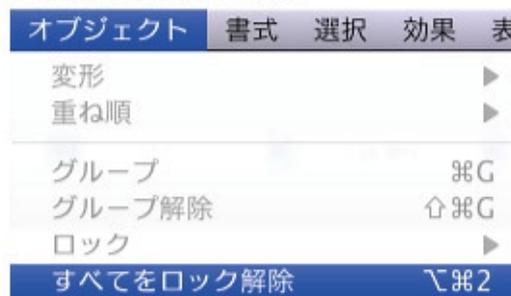
※ロックがかかっているとアウトライン作成できません。

レイヤーを含め全てのロックを解除してからアウトライン作成を行ってください。

### ■レイヤーのロック解除



### ■オブジェクトのロック解除



### <注意>

一度アウトラインを作成をすると文字の編集ができなくなります。  
アウトライン作成後のデータは別名で保存するか、  
ファイルのバックアップをとってから  
アウトライン作成してください。

2. アウトライン作成したいテキストオブジェクトを選択します。

※すべてを選択して、まとめてアウトライン作成される  
ことをおすすめします。

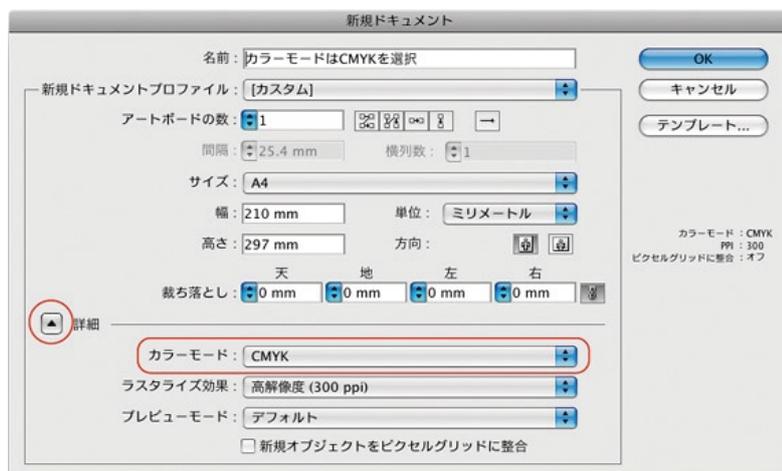
「選択」メニュー→「すべてを選択」

3. 「書式(文字)」メニュー→「アウトラインを作成」



# カラー設定 書類のカラーモード

印刷はCMYKのインキでカラーを再現しますので「CMYKカラーモード」でデータを作成してください。  
新規書類作成時に「CMYKカラーモード」をお選びください。



※後から[ファイル]メニュー→[ドキュメント/書類のカラーモード]から、カラーモードを変更することは  
できますが、CMYK変換結果はアプリケーションのカラー設定に依存されます。

※Illustrator8には書類のカラーモードはなく、CMYKとRGBのカラーを混在させることができます。  
色を指定するときはCMYKカラーで設定してください。

## RGB カラーモードで作成された場合

当社印刷標準プロファイルに基づいてCMYK変換します。

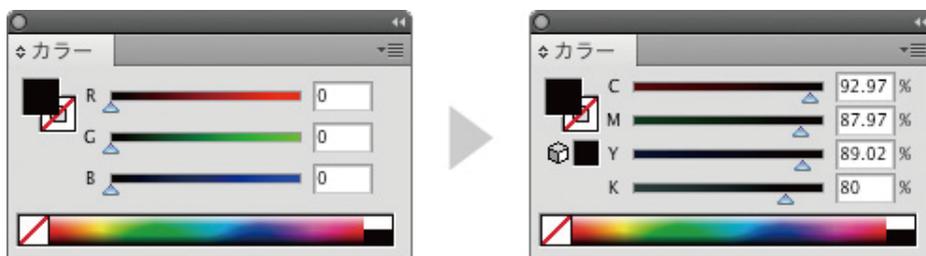
CMYK変換はアプリケーションやRIPの設定に依存します。

お使いのモニター・プリンターから出力された結果や、色見本帖などに合わせるものではありません。

RGBカラーモードではCMYKでは再現できない鮮やかな色再現が可能です、  
印刷ではくすんだ色になってしまいます。

## RGB カラーモードで作成された黒

RGBカラーモードで作成された黒(R0 G0 B0)は、CMYKに変換すると4色掛け合わせの黒となります。



<文字に注意>

小さな文字や、その文字の背景などを、RGBの黒(R0 G0 B0)で作成された場合、CMYK4色混色の黒となり、  
わずかな見当ズレの影響でにじんでいるように見え、可読性を損なうことがあります。

[見当ズレの例]



このような場合はあらかじめCMYKカラーモードでファイルを作成し、墨ベタ(K100%)で色をご指定ください。  
K100%で作成されたオブジェクトは原則ブラックオーバープリント(墨ノセ)となり、見当ズレの影響を回避  
することができます。

# 特色（スポットカラー）は プロセスカラーに直していますか？

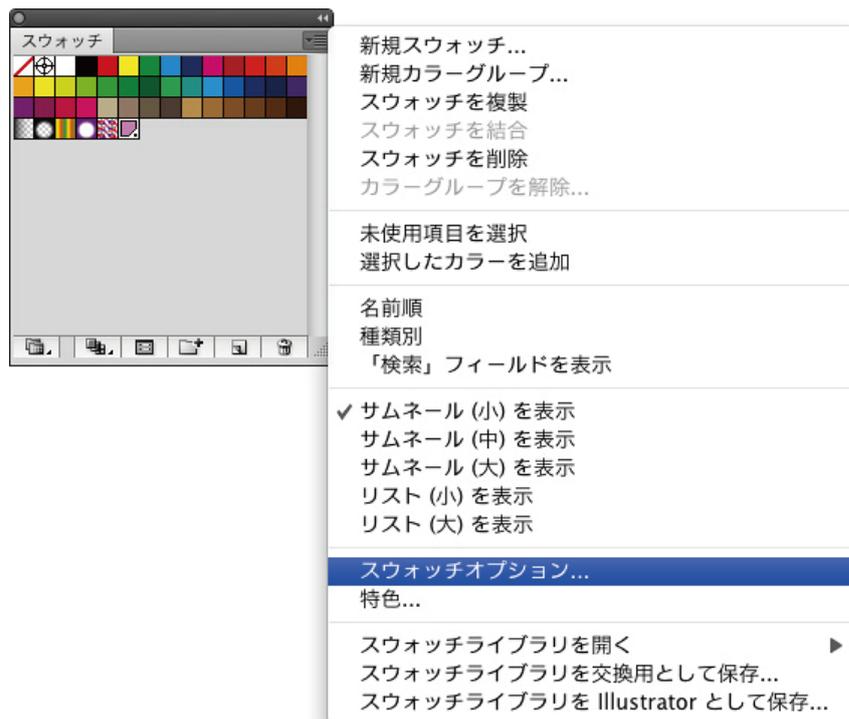
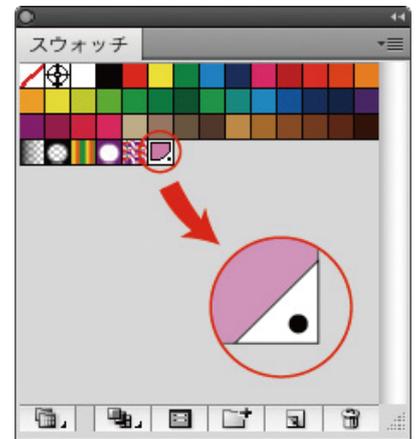
印刷で使用するインキには「プロセスカラー」といわれる、CMYK4色を掛けあわせて使用するプロセスインキと、特定の色に調合されたカラーインキ「特色」があります。

プロセスインキのみを使用する「プロセス印刷」では、特色(スポットカラー)は使用しないでください。

使用された場合は、ご入稿前にカラータイプを「プロセスカラー」に変更してください。

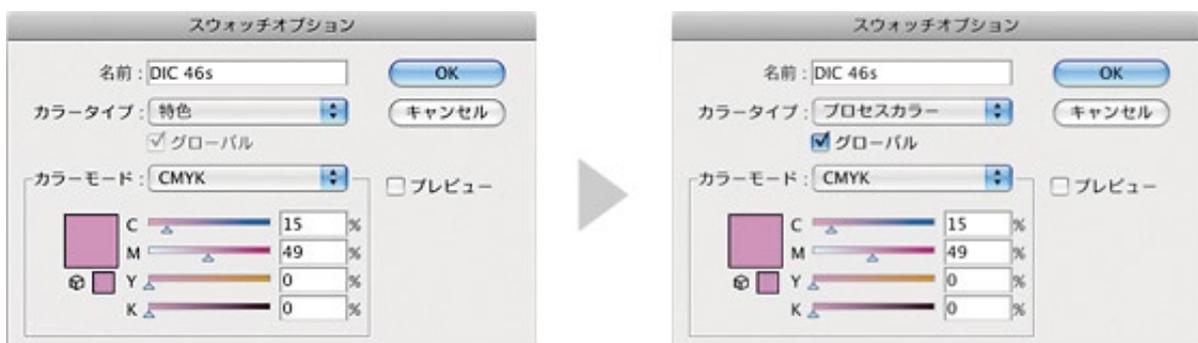
特色(スポットカラー)のプロセス(CMYK)変換

- 1.「スウォッチライブラリ」の「カラーブック」から使用した色  
(PANTONE、DIC等)は特色(スポットカラー)として登録されます。
- 2.「スウォッチパレット」を確認し、図のマークになっているものが「特色」です
- 3.何もオブジェクトが選択されていないことを確認し、  
該当の色をダブルクリックするか、「スウォッチパレット」のオプションから  
「スウォッチオプション」を選択します。



4.「カラータイプ」を「特色」から「プロセスカラー」に変更してください。

※このとき「グローバル」のチェックを外さないようご注意ください。



# 画像はリンクまたは埋め込みされていますか？

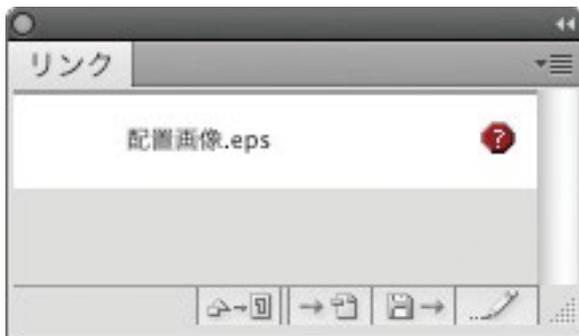
## リンクとは？

Illustratorファイルに画像ファイルは取り込まれず、レイアウト用プレビューが表示される状態となります。(画像のファイル形式によっては表示が粗くなります)。ファイルサイズが小さく、作業環境にかかる負担が少なくなり、効率的に作業することができますが、出力する際は常に「Illustratorファイル」+「画像ファイル」がセットで必要となります。



- ※リンク画像を修正しても、再度画像を配置する必要はありません。リンクを更新すると、修正が反映されます。
- ※リンク画像に対して、Illustratorで「効果」や「フィルタ」を使用することはお勧めできません。実際に印刷される画像ではなく、プレビューに効果がかかった状態になり、正常に効果を出力することができなくなります。

## 配置画像 リンク切れに注意



リンク切れとは、リンクで配置した画像ファイルを、Illustratorが読み取ることができない状態です。画像が抜け落ちた状態で、表示・印刷されてしまいます。

次のようなときにリンク切れとなります。  
リンク切れとなったときは、正しい画像ファイルを再配置して、Illustratorファイルを保存してください。

### 〔リンクファイル名を変更したとき〕

Illustratorはファイル名を参照してリンクファイルを認識しています。データ入稿時など、ファイル整理のために名称を変更したりするとリンク切れの原因となります。また画像を修正して「修正済み」などの文字列をファイル名に追加したときは、画像を再配置してください。

### 〔ファイル形式(拡張子)を変更したとき〕

拡張子もファイル名の一部として認識されます。作業中のPSDファイルや、アタリとして仮配置したJPGファイルなどを、印刷用に保存したEPSファイルに差し替えるときなどにご注意ください。

## 埋め込みとは？

Illustratorファイルに画像ファイルが取り込まれ一体となります。Illustratorファイルのサイズは非常に大きくなりますが、リンク切れの心配がなくなります。(配置した画像ファイルをご入稿いただく必要がありません)。画像を修正した場合は、リンクの再設定を行い、再度画像を配置する必要があります。※カラーモードやカラー設定によっては埋め込み時に画像の色が変わることがあります。

### 埋め込み時の注意

- ※「カラー設定」が不適切だと、色みが大幅に変わってしまうことがあります。Photoshop、Illustratorの「カラー設定」を適切な設定で統一し、できるだけ画像はPhotoshopでCMYK変換してから、Illustratorに配置してください。
- ※画像は1つずつ埋め込んでください。

# 解像度は適切ですか？

画像解像度とは、画像の精細さをあらわす数値で、dpi(dot per inch)や、ppi(pixel per inch)という単位が使用されます。Photoshopではppiで表記されますが、呼び方はdpiが一般的です。

(本来は画像そのものの画像解像度はppiで、印刷など出力時の解像度をdpiといいます。)

ピクセル(ドット)が1インチ(=25.4mm)にいくつ並んでいるかを示し、

数値が大きいくほど、画素の密度が高くなり、高精細になります。

※印刷用の適正な解像度は350~400dpiとなります。

※ポスターなどは離れて見るので200dpiほどでも問題ありません(大きなサイズの画像を400dpiにすると、データ容量が非常に大きくなり、作業環境に負担がかかります)。

※72dpiはスクリーン解像度といって、WEBなどで用いられる、画面表示用の解像度です。

モニターではきれいに見えていても、印刷には不十分ですので、粗い、ドットが目立つ仕上がりととなり、文字などは読めないことがあります。

## 【用途別解像度】

71~96dpi	Web用解像度(スクリーン解像度)
200dpi	離れて見るポスターなどについては、印刷用としても使用できる。
350~400dpi	印刷用解像度

## 画像解像度と画像サイズ

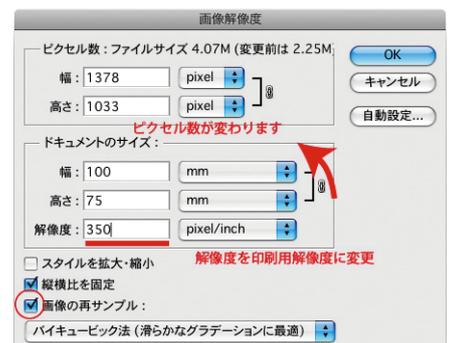
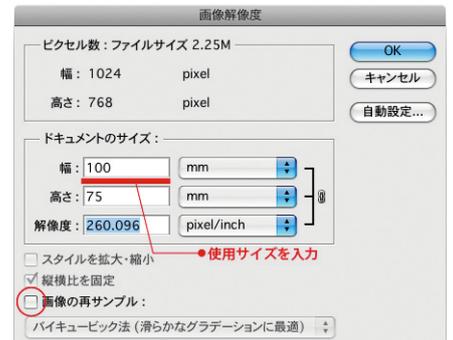
デジカメで撮影した画像などを、印刷で使いたいサイズに合わせると、解像度が大き過ぎたり、不足したりと、ちょうどのデータを用意することが難しいことがあります。そのような時は、Photoshopでピクセル数を補完して、サイズ・解像度を調整することが可能です。



1. 「イメージ」メニュー→「画像解像度」

2. 「画像の再サンプル」のチェックを外して「ドキュメントのサイズ」欄の「幅」か「高さ」に使用サイズを入力します。

3. 「画像の再サンプル」のチェックを入れて「解像度」に適正な解像度を入力すると、ピクセル数を調整して、サイズはそのまま、画像解像度を変更することができます。逆に画像解像度を変えずに、サイズを変更することも可能です。



解像度を上げる場合やサイズを大きくする場合、元のデータに無いピクセルを生成しますので(ピクセル補完)、どうしても画像の劣化は避けられません。Photoshopには劣化がなるべく目立たないようにピクセル調整する機能「画像の再サンプル」があり、ピクセル補完方法はオプションで選択することができます。

### ・バイキュービック法

高精度な画像補完方法です。周囲のピクセルを計算して中間の色のピクセルを生成してくれます。通常はこれを選択します。

### ・バイリニア法

バイキュービック法とニアレストネイバー法の中間的な画像補完方法です。バイキュービック法より計算に用いる周囲のピクセル数が少ないので、処理が早くなります。

### ・ニアレストネイバー法

元データにない色のピクセルは生成せず、もっとも近いピクセルで埋める画像補完方法です。画像の輪郭がギザギザになりますが、線画画像の拡大・縮小などに効果的なことがあります。



※画像の再サンプルを繰り返すと画像が劣化しますので、一回の調整で適切なサイズ・解像度にするをおすすめします。

# Photoshop データについて

## ■配置画像のカラーモード

フルカラー印刷面に使用する画像は「CMYKカラーモード」、モノクロ印刷面に使用する画像は「グレースケールモード」に変換してください。

### 【カラーモードの変換(Photoshop)】

[イメージ]メニュー→[モード]から変換先のカラーモードを選択



※CMYK変換をすると、CMYKで再現できないRGBの色域が失われ、またフィルタなどの一部の機能が使用できなくなります。色調補正などデータを調整後、アンシャープマスクをかける直前にCMYK変換し、別名で保存されることをおすすめします。

### 【RGBカラーモードで作成された場合】

当社印刷標準プロファイルに基づいてCMYK変換します。

CMYK変換はアプリケーションやRIPの設定に依存します。

お使いのモニター・プリンターから出力された結果や、色見本帖などに合わせるものではありません。

RGBカラーモードではCMYKでは再現できない鮮やかな色再現が可能ですが、印刷ではくすんだ色になってしまいます。

## ■配置画像データの保存形式

Illustratorに配置する画像の保存形式は、EPS/TIFF/PSDを推奨しています。

### 【EPS】

DTPでもっとも一般的な画像形式。1ファイルに画像データとプレビューデータを保存でき、

Illustratorでリンク画像として配置すると、プレビューが表示されます。

〈おすすめのEPSオプション設定〉

プレビュー	Macintosh (8 bit/pixel) WindowsはTIFF (8 bit/pixel)
エンコーディング	JPEG - 最高画質(低圧縮率)
チェックボックスはすべてオフ ※チェックボックスをオンにすると、出力時のCMYK値が変わったり、グレースケール画像がCMYK4色に変換されることがあります。	



※EPSで保存するには「画像を統合」する必要があります。

### 【PSD】

Photoshopネイティブの保存形式で、すべての情報を保存できます。

作業中のデータはPSDで保存、EPSなどで保存される場合もマスターデータとしてPSDの画像を保存しておくことをおすすめします。入稿時は[表示レイヤーを結合]し、不要な非表示レイヤーを削除したファイルをご用意ください。

※[画像を統合]すると背景の透明が失われます。

### 【TIFF】

EPSに次いでDTPでよく使用される画像形式です。EPSより汎用性が高く、いろいろなアプリケーションで開くことができます。EPSのようにプレビューを持たないので、画像の読み込みに時間がかかることがあります。

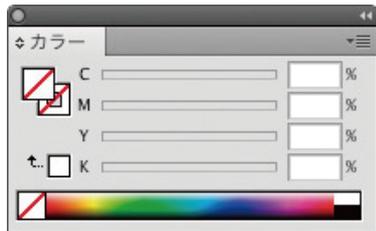
クリッピングパスを設定できますが、レイアウトソフトでクリッピングパスが有効にならないことがありますので、使用しないでください。保存オプションの画像圧縮は「なし」か「LZW」を選択してください。

# トンボについて

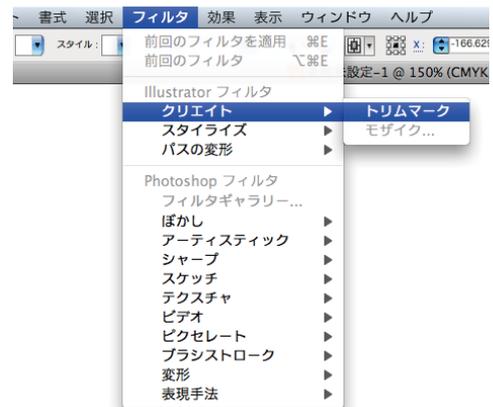
Illustratorでは仕上がり位置・サイズを示すために、トンボを作成します。

## ■トンボの作成手順

- 1.仕上がりサイズを確認してください。
- 2.長方形ツールで仕上がりサイズのボックスを作成します。
- 3.作成したボックスの塗りと線の色設定を「なし」にします。



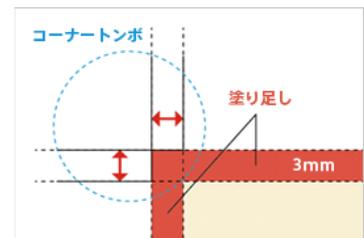
- 4.ボックスを選択した状態で次の操作を実行してください。  
「フィルタ」メニュー→「クリエイト」→「トリムマーク」



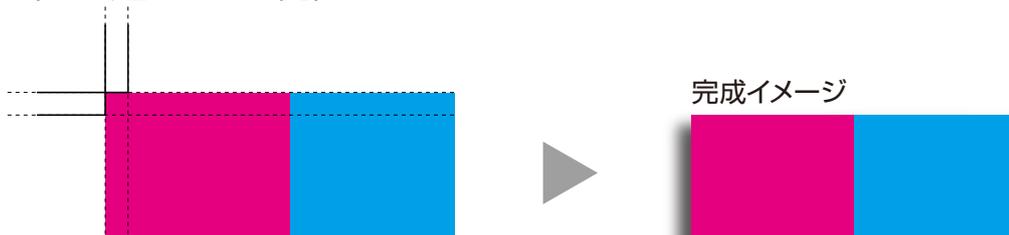
## 塗り足しについて

断裁用の目印(トンボと言います)を入れた状態でまとめて印刷し、断裁します。  
紙面の端の部分まで色や写真が入るとき、データ上で紙面ギリギリまで作成していた場合、断裁の際にほんの僅かなずれが生じただけで、印刷する用紙の色(白地)が出てしまう可能性があります。それを避けるため、塗り足しをつけます。

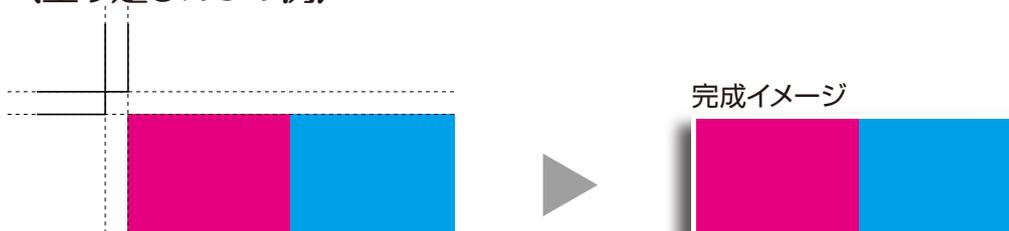
塗り足しはIllustratorで作成したトンボ(コーナートンボ)の内側を結んだ線(仕上がりサイズ)と、外側を結んだ線(製版サイズ)との間の幅が、塗り足し作成幅の目安となる3mmになります。塗り足しは、できるかぎり外側を結んだ線まで作成してください。仕上がり位置、塗り足し幅、文字の配置範囲をガイドで作成しておく、レイアウトの目安となります。



### 〈塗り足しOKの例〉



### 〈塗り足しNGの例〉



※断裁の誤差で紙の印刷されていない部分が見えてしまいます。